

# 2008年度研究室活動記録

## 2008年度講義内容一覧

### 【生涯学習基礎論Ⅰ】 担当：教授・牧野 篤

「社会教育とは何か」という根底的な問いを出発点として、まず戦後社会教育論を振り返ったのち、宮坂広作『近代日本社会教育史の研究』を手がかりに、明治期以来の社会教育論の再検討をおこなった。具体的には、山名次郎、佐藤善次郎、井上亀五郎など初期社会教育論者の著作を検討した。

### 【生涯学習基礎論Ⅱ】 担当：教授・牧野 篤

生涯学習基礎論Ⅰに引き続き、明治大正期の社会教育論の再検討をおこなった。宮坂広作『近代日本社会教育史の研究』に沿うかたちで谷本富、吉田熊次、湯原元一らの社会教育論を検討対象とし、行政社会教育の成立前夜における社会教育概念の形成過程を確認することを試みた。

### 【社会教育学基礎理論Ⅴ】 担当：非常勤講師・鈴木敏正

『生涯学習の教育学』の各章について参加者が発表を行い、それに対する質疑応答を中心に授業が展開された。学習論・教育形態論・実践論・計画論を主体形成論という観点から統合する試みが示され、社会教育・生涯学習の研究における体系化の重要性と課題が提起された。

### 【社会教育学基礎理論Ⅵ】 担当：非常勤講師・長澤成次

近年の、地方分権・市町村合併・規制緩和の動向のもとでの社会教育・生涯学習関連政策について、参加者の関心に基づいた発表が行われた。具体的には社会教育法や図書館法・博物館法の改正、放課後子どもプランや学校支援地域本部事業の実施などのトピックについて、学校教育・家庭教育・社会教育の関係の再編のあり方を視野に入れた議論が交わされた。

### 【生涯学習論文指導】 担当：教授・牧野 篤

月に一度程度ペースで実施し、修士論文構想、博士論文構想、調査研究計画等、参加者による研究近況報告を行った。それぞれの参加者の報告をもとに、教員や院生らがコメントを述べるかたちで報告された研究について議論し、参加者一同の研究の方向性を検討する機会となった。

## 学位論文

(修士論文2009年3月)

古壕典洋「日本における遠隔教育の変遷と特質 —成人

学習支援の観点から—」

熊川安理「高齢者像の変遷から見る高齢者政策の課題についての一考察」

王美璇「台湾における社区大学の理念と変遷 —市民意識啓発の観点から—」